

よしかわ通信 2002 新春号

E-mail kyudaiji@aqua.ocn.ne.jp

発行
高萩市議会議員
よしかわどうりゅう
吉川道隆
高萩市安良川 686
TEL 0293-24-0833
FAX 0293-22-3340

新年を迎え、恒例の箱根駅伝でわが母校の駒澤大学がみごと優勝しました。私も感動を与えてくれた選手たちのように、がむしゃらに頑張ったいと思いますので、今年も皆様方の御指導、御鞭撻をよろしくお願い致します。

平成12年3月一般質問した『情報公開条例』がその後13年4月に施行され、12月には『個人情報保護条例』も可決し、今年7月1日施行の予定です。みなさんどんどん活用して下さい。

行政視察（平成13年11月6日～7日）兵庫県神戸市



神戸市庁舎で説明を受ける

文教厚生委員会の行政視察として、兵庫県神戸市へ行って参りました。高齢化社会に対応した市営住宅についてということで、特別養護老人ホームと借上市営住宅からなる、魚崎高齢者介護支援センターを見学させていただき、市役所で担当の方にいろいろ教えていただきました。

シルバーハイツというのがあり、お年寄り向けに住居内の段差をなくしたり、もしもの時には、自動的に報知器が鳴ったり、緊急時の通報装置などがほどこされている住宅です。これからの高齢化社会に対応するには、この様な点に留意しながら、設計をしていくべきでしょう。神戸市では、震災の影響で沢山の人が住居に困っていたという事情の元、こういった集合住宅の建築が素早く進んだという背景もあり、よい勉強になりました。

11月19～21日 東京都日本青年館

清溪セミナー（超党派議員集会）に参加

講演内容

- 特別講演 石原 伸晃先生（内閣府行革担当大臣）
- 特別講座「日本の政治はこう動く」
小里 貞利先生（自民党前総務会長）
- 事例研究会「中央商店街の活性化」
望月 照彦先生（多摩大学教授）
- 講座「政治の潮流と地方政治家の役割」
福岡 政行先生（政治評論家、白鷗大学教授）

約100名の全国各地の市町村議会の議員、町長、県議など党派を超えた参加による活発な意見交換、パネルディスカッションが行われた。

このセミナーのメイン講師である福岡先生は、私の大学時代の恩師でもあります。その頃先生は、駒澤大学の政治経済の助教授をしておられ、私も先生の講義を受けました。今でも同窓会には必ずおいでになり、興味あるお話を聞かせていただきます。

自分の町にこもるのではなく、やはり、時には、広い視野でいろんな方々の意見を聞くのも大変貴重なことだと思いました。

郵便はがき

料金受取人払 318-8790

高萩局
承認
43

(受取人)

差出有効期間
平成15年12月
31日まで

高萩市安良川686

吉川道隆 行

切手を貼らずにこのまま郵便ポストに入れて下さい。

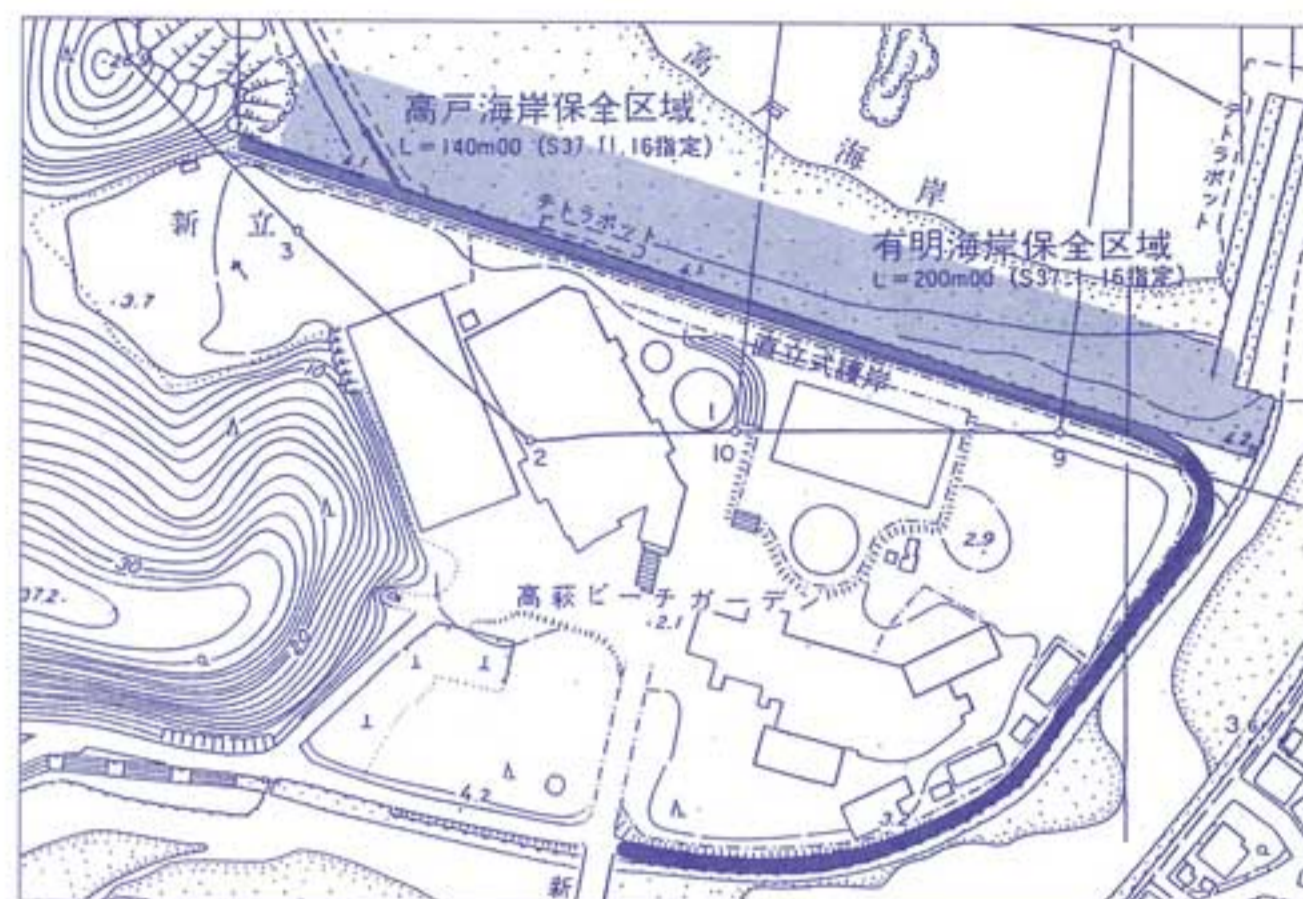
ご住所 〒□□□ □□□□		
ふりがな お名前	性別	男・女
	年齢	歳
電話番号	- -	ご職業

凡 例	
進入路	……高萩市取得
護岸部分	……県取得
砂 浜	

高萩ビーチガーデン跡地の利用について

ビーチガーデンは、高萩で唯一大きな集まりができる場所として、市としても、市民の方々も利用してきたが、なくなってしまい、不便を感じている方は多いのではないかと。今となつては、何かあると大心苑を利用するしかないようだが、やはり、その広さと立地条件の問題で今一つしっくりいかない。市民プールの要望もあり、以前は利用料が高くて利用者が減っていたビーチガーデンのプールも、市営となれば、十王町の町営プールと同様、目の前の海岸を共有しながら、利用されるのではないかと。

14 年度、市と県による、ビーチガーデンの土地、高戸海岸への進入路・護岸部分・砂浜の取得がほぼ決定することから、何とか



しなければならぬ。防災、防犯上、景観上、非常に問題である。投資をするなら、ビーチガーデンの有効利用を考えるべき。その後何か措置が行われているのか。財政は大変なのは十分承知しているが、何かを調整して、何とか利用する方向で考えられないか。営業していなくても、多大な税金を払ってもらうのだから、優遇措置をとりながら、市が主体となって再開させる策を考えて頂きたい。県に対して、市の意気込みを見せれば、大分変わるのではないかと。

高萩の海をPRしに他県まで行って、紹介しても遊ぶ施設がない。あのままでは、高萩の魅力が欠けてしまう。高萩市が誇る高戸海岸の魅力を最大限に引き出すよう、検討して頂きたい。C・C・Zの整備が滞っている現状において、キャンプ場・釣り公園・スポーツ公園等に整備して、市民の憩いの場として利用できないか。

答 弁

継続してもらうよう協議を進めてきたが、再開するつもりはなく、今の建物は、早い機会に全部解体して更地にし、新しい発想は、高戸の山の上に、ホテルを作ると考えているそうである。今後は、早く計画を進めてもらうよう折衝を重ねる予定。市が、堤防敷きの道路の一部を、県が、海岸周辺の土地を取得していくことによって、マリーナ事業を再開する一つの保証となる。現在の建物があるところは、美化整備を進め、海浜公園、キャンプ場、多目的なイベント広場として検討していきたい。

市町村合併について

合併に関して、議会の中では、なかなか機運が高まらない。今、合併すると、国から支援、補助が受けられるので、是非この機会を逃すことなく、進めていきたい。一般市民からも『是非進めてほしい。』という意見がでてくる。高萩市の環境をよくして合併の機運を高めていく、すばらしい高萩づくりに努力したい。合併は、押し付けや一方的ではなく、いかに発展させるかであり、地域色が無くなることではない。それぞれの市町村が進歩し、合併によって、より良いレベルを目指すことであるから、市長を始め、私達議員が、高萩市だけでなく、この県北地区全体をよくしようという気持ちをもって、合併を推進していくべきである。住民のコミュニティ制度をつくり、町内会くらいの範囲で、住民の声を反映できるように努めていきたいと考えているが、市長のお考えは。

答 弁

合併は、時代の流れで避けては通れない。隣接市町村と比べて高萩が財政的に苦しいというわけではない。自信を持って進められる。住民の意思も尊重しながら、機運にのって、十分な体制づくりを進めていきたい。

所 感 市町村合併は、確かに住民の意向も大切だが、首長の熱意次第で決まる。次期市長となる方には、是非とも「合併」を公約にして、実現に向けて最大限の努力をしていただきたい。

又、男女共同参画社会の実現と少子化・高齢化対策の推進について力を入れて、共にがんばりたいと思います。

吉川どうりゅう に対して、叱咤激励、ご質問がありましたら、お聞かせ下さい。